

大使館便り

第182号 平成30年5月1日
在ポルトガル日本国大使館

1. 新美大使からのご挨拶

御存知の方も多いと思いますが、日本とポルトガルの間には、8組の姉妹都市関係が結ばれております（うち1組は、正確には国際友好都市関係）。これらの姉妹都市関係のうち、昨年は長崎県大村市とシントラ市が関係20周年を祝いました。今年は長崎市—ポルト市、大分市—アヴェイロ市が各々40周年を迎えており、海を越え双方の市長が顔を揃えての祝賀行事の開催や、少年サッカー交流等、様々な記念行事の計画が進められております。

私は3月上旬、日本に用務帰国した折、大村、長崎、大分の各市を訪問し、市長に御挨拶すると共に、関係者の方々と姉妹都市周年事業についての打合せをさせていただきました。また更に、2020年東京オリンピック、パラリンピックに際し、ポルトガルのホストタウンになったり、ポルトガル選手団に事前キャンプ地を提供する等、オリ・パラを契機としてポルトガルとの友好親善関係を一層発展させる構想についても話をうかがいました。この関係で大分市では、世界陸上2015年北京大会に際し、ネルソン・エボラ選手（2008年北京五輪三段跳金メダリスト）はじめポルトガル陸上チームが同市で事前キャンプを行った際の、写真を見せて頂きましたが、選手達が地元の陸上選手や子供達に陸上を指導している様子は、まことに心温まるものでした。

サッカーW杯2002年日韓大会の際、出場国代表チームの事前キャンプ地となったことを通じて、日本のいくつかの町がその国と友好親善関係を築いたエピソードは、未だ記憶に新しいところですが、姉妹都市交流と共に、来るオリ・パラが日本ポルトガル両国の友好親善の更なる契機となることを期待しております。

2. 政治・経済関係

(1) ソウザ大統領、仏・エジプト・スペインを訪問

4月8～9日、ソウザ大統領は第一次世界大戦で多くのポルトガル軍兵士が犠牲になったフランドル地方の「リースの戦い」（1918年4月9日～27日）から100年の節目を迎えたことに合わせ、訪仏しました。

9日、マクロン仏大統領出席のもと、仏北部リシュブールのポルトガル軍兵士の墓地で開かれた追悼式典で、ソウザ大統領は、第一次世界大戦にポルトガルが参戦したのは「正しくないビジョン」だったとした上で、本式典は「感動的な追悼であり、歴史的な修復である」とあいさつしました。マクロン大統領は「ポルトガルと仏は深く強固な友情で結ばれている」と述べ、同行したコスタ首相は「過去の過ちを胸に未来を見る必要がある」と語りました。

続けて11～13日、ソウザ大統領はエジプトを訪問しました。16年11月にポルトガルを

訪れたエルシーシ大統領の招待に応えたものです。同大統領は12日、エルシーシ大統領との会談後に開いた共同記者会見で、中東情勢、特にシリア紛争を解決し、人権を守るためには対話が重要になるとの見方を示しました。エルシーシ大統領は、両国関係を良好とした上で、両国間の交流をあらゆるレベルで活発化させることが重要と述べました。ソウザ大統領はこのほか、現地のポルトガル人コミュニティと交流したり、ギザのピラミッドや16年12月にテロで多数の死傷者に見舞われたコプト教の教会を訪れたりしました。

更に15～18日、ソウザ大統領はスペインを訪問しました。こちらも16年11月にポルトガルを訪れたフェリペ国王の招待に応えたものです。16日夜に王宮で開かれた晩餐会で、フェリペ国王は、両国関係について、過去の争いの歴史を乗り越えて「手を携えて共に歩いている」とした上で、「我々はEU、NATO、国連で良好なパートナーであり、友人である」と述べました。翌17日、ラホイ首相と会談したソウザ大統領は共同記者会見で、「世界は強い欧州を必要としている。そのためにはポルトガルとスペインが力を合わせる必要がある」と述べました。

(2) 安定プログラム・国別改革プログラムの発表

4月13日、ポルトガル政府は中期財政目標（2018～22年）をまとめた「安定プログラム」と持続的な経済成長に向けた目標・施策をまとめた「国別改革プログラム」を閣議承認しました。

24日、共和国議会で両プログラムを対象に、各党代表者による活発な討論が行われ、センターノ財務大臣は「安定プログラムは包括的な成長路線を維持している。ポルトガル経済が現在ほどに国民に恩恵をもたらしたことは一度もない」と述べました。26日には、前年と同様、両プログラムに対する否決動議が野党・民衆党（CDS）から提出されて国会採決が行われましたが、同党及び社会民主党（PSD）が賛成した一方、与党・社会党（PS）及び左派諸政党の反対多数で否決されました。

「安定化プログラム」で示された2018年の経済成長率見通しは2.3%で、18年の政府予算で想定していた2.2%から上方修正されました。対GDP比財政収支の見通しは▲0.7%で、同じく同予算で想定していた▲1.1%から引き上げられました。

同プログラムにおける主なマクロ経済指標の見通しは以下の通りです。

年	2018	2019	2020	2021	2022
GDP	2.3	2.3	2.3	2.2	2.1
財政収支	▲0.7	▲0.2	0.7	1.4	1.3
公的債務	122.2	118.4	114.9	107.3	102.0
失業率	7.6	7.2	6.8	6.5	6.3

※上記単位は%。財政収支、公的債務は対GDP比。

(3) コスタ首相・リオ社会民主党（PSD）党首、EU予算と地方分権化で共同宣言に署名

4月18日、コスタ首相と野党PSDのリオ党首は、EU次期予算（2021～27年）とポルトガルの地方分権化の推進に関する共同宣言に署名しました。

署名式が首相官邸で行われ、コスタ首相は「ポルトガルは民主的な政治合意を築かなくてはならない。国家改革と言える構造的なテーマについては、幅広い政治合意が不可欠。国家の成長戦

略は政府や野党のみによらず、ポルトガル社会全体の共同戦略でなければならない」と述べました。これに対し、リオ党首は「ポルトガルにとって良いことは、自動的に（PSDにとっても）良いことである」と応えました。

（４）ポルトガルの信用格付、DBRSが１段階引上げ、ムーディーズは据え置き

４月２０日、カナダの格付会社DBRSは、ポルトガルの信用格付を投資適格級最下限の「BB（low）」から「BBB」に１段階引上げました。格付見通しは「安定的」です。DBRSは、ポルトガル経済が「着実に成長し続けている」とした上で、「公的財政の改善はより永続的になった。これが公的債務比率の下落曲線を支えている」と説明しました。

一方、翌２１日、米の大手格付会社ムーディーズは、ポルトガルの信用格付を非投資適格級の最上位「Ba1」に据え置いたと発表しました。同社は１７年９月、①投資回復に伴うポルトガル経済の成長力向上、②政府の財政努力、③借換えリスクを軽減させる債務構造の改善の３点を理由に、格付見通しを「安定的」から「ポジティブ」に引き上げていましたが、格上げには「ポルトガル財政と経済の発展が持続可能であり、債務の減少が恒常的であると結論付けられることが必要」と指摘しました。なお、他の大手格付会社S&Pは１７年９月に、フィッチは同年１２月にポルトガルの信用格付を投資適格級にそれぞれ引き上げています。

（５）ソウザ大統領、革命記念日の式典で演説

４月２５日、ソウザ大統領は、共和国議会で開かれた１９７４年４月２５日のカーネーション革命を記念した式典で、前年に引き続き、欧州他国などで台頭するポピュリズムやナショナリズムに警鐘を鳴らす演説を行いました。

同大統領は、健全な民主主義において、政治制度の改革能力は不可欠と指摘しつつも、その改革のあり方がポピュリズムやナショナリズムに傾倒してはならないと指摘した上で、「我々が誇りに思っている愛国主義を、外国人嫌悪に基づくハイパーナショナリズム（超国家主義）と混同してはならない。４月２５日を祝うことは、未来へのルールが望ましくない道につながるのを防ぐことを学ぶためにある」などと述べました。

3. 広報・文化関係

（イベント）

●第８回「日本祭り」(Festa do Japão) の開催

今回で第８回目を迎える大規模日本文化紹介イベント「日本祭り」(Festa do Japão) が、今年もリスボン祭 (Festas de Lisboa) の一環として以下のとおり開催されます。日本の伝統文化やポップカルチャーの舞台イベント、様々な文化関連ワークショップや日本食屋台など盛りだくさんのプログラムで皆様のご来場をお待ちしています。ぜひ盆踊りや灯籠流しに皆で参加し日本の夏祭りの雰囲気をお楽しみ下さい。

詳細については、追って当館サイトに掲載いたしますのでご参照下さい。

日時：６月１６日（土） １４：００～２２：００

会場：Rossio dos Olivais, Parque das Nações - Lisboa

入場：無料

お問い合わせ：cultural@lb.mofa.go.jp、 21 311 0560（日本国大使館広報文化班）

●オリエン特博物館における俳句イベント「O que é o Haiku?」（“俳句とはなにか？”）の開催

オリエン特博物館において、Leonilda Alfarrobinha 専門家による標記俳句イベントが開催されます。俳句の概要、個展から現代までの俳句作品を概観の後、実際に俳句創作にもチャレンジします。詳細は下記 URL をご参照下さい。

日時：5月16日（水）及び23日（水）

会場：オリエン特博物館

住所：Av. Brasília, Doca de Alcântara (Norte)、1350-352、Lisboa

参加費：25ユーロ

お問い合わせ：info@foriente.pt

URL：<http://www.museudoorientep.pt/3198/o-que-e-o-haiku.htm#.Wt87Dpdy7XY>



（報告）

●第15回 JAL 世界こどもハイクコンテスト・ポルトガル大会授賞式の実施

4月14日、JAL 財団及び当館共催事業「第15回 JAL 世界こどもハイクコンテスト」ポルトガル大会の授賞式が大使公邸で実施されました。ポルトガル開催は2回目となる同コンテストは、今回「生き物」をテーマに募集され、ポルトガル全土から寄せられた290作品の中から4名が大賞を受賞しました。4名の作品は今後世界各国の優秀作品と共に本として出版され、JAL の国際便のエンターテインメントチャンネルでも放映される予定です。受賞者の皆さん、おめでとうございます。



●オリエン特財団創立 30 周年及びオリエン特博物館 10 周年記念行事における日本文化関連イベントの開催

4 月 22 日、オリエン特博物館において、オリエン特財団創立 30 周年/オリエン特博物館 10 周年記念行事の一環として、書道、日本伝統工芸（起き上がりこぼし）、初心者向け日本語コース等の日本文化関連イベントが開催されました。本イベントへは、日本・フランスを拠点に活躍する気鋭の小杉卓書家も参加し、ワークショップ、デモンストレーション、講演、ピアノ&尺八との共演などを行った他、当地在住の芸術家や日本語教師の協力を得て、普段日本文化に触れる機会の少ないポルトガルの参加者にとって大変有意義な日本文化体験の日となりました。



(お知らせ)

●第 12 回国際漫画賞の作品募集開始

1 外務省及び国際交流基金は第 12 回日本国際漫画賞を開催することとし、作品を募集いたします。

2 第 12 回日本国際漫画賞の作品募集日程は以下の通りです。

(1) 募集期間：平成 30 年 4 月 2 日（月）から 6 月 15 日（金）（必着）

(2) 応募作品の提出先：各在外公館（除く政府代表部）及び第 12 回日本国際漫画賞専用私書箱

※募集の詳細は[日本国際漫画賞 web サイト](http://www.manga-award.mofa.go.jp/) (<http://www.manga-award.mofa.go.jp/>) をご覧下さい。

3 日本国際漫画賞は、麻生太郎外務大臣（当時）のイニシアチブを受け平成 19 年 5 月に創設された賞で、創設以来、海外への漫画文化の普及と漫画を通じた国際文化交流に貢献した漫画作家を顕彰することを目的として、毎年実施されています。

応募作品のうち最も優秀な作品に「日本国際漫画賞最優秀賞」、優秀な 3 作品に「日本国際漫画賞優秀賞」がそれぞれ授与されます。受賞者は、国際交流基金の招へいにより授賞式に合わせて訪日し、日本の漫画家との意見交換、出版社等への訪問、地方視察等を行う予定です。

募集要項 (<http://www.pt.emb-japan.go.jp/files/000352206.pdf>)

応募票 (<http://www.pt.emb-japan.go.jp/files/000352207.pdf>)

[参考 1] 第 12 回日本国際漫画賞実行委員会の構成

実行委員長：河野太郎外務大臣

委員：白石さや東京大学名誉教授、

杉山恒太郎ライトパブリシティ代表取締役社長

フレデリック・L・ショット（作家・通訳・翻訳家）

横田清小学館常務取締役

安藤裕康国際交流基金理事長

[参考 2] 今後の日程

募集期間：平成 30 年 4 月 2 日（月）から 6 月 15 日（金）

結果発表：平成 30 年 12 月頃

授賞式：平成 31 年 2 月頃（予定）

[参考 3] 日本国際漫画賞の web サイト (<http://www.manga-award.mofa.go.jp/>)



●広報文化班からのお知らせ

今後、当館主（共）催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えてEメールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、cultural@lb.mofa.go.jpまでご連絡下さい。

4. 領事関係

(1) 「ゴルゴ13×海外安全対策マニュアル」動画版の配信開始

外務省では、「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」を制作して、海外安全ホームページに掲載してきました。このほどYouTube等を通じて手軽に視聴することが可能な動画版が完成し、今後毎週金曜日、6月末にかけて全13話を配信予定です。

(2) 在留届に関するお願い

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、**ポルトガル国内での転居**、**日本への帰国**、**他国への転出等**、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。

(3) 在外選挙人名簿登録

外国に在住する日本人が衆議院議員選挙、参議院議員選挙をするためには、在外選挙人登録が必要です。18歳以上で日本国籍を持っていること、ポルトガルに3か月以上住んでいること、日本で転出届を市町村役場に提出済であることが必要です。なお、3か月未満のポルトガル在住でも申請できますが、居住期間の3か月经過時に改めて所在を確認した上で登録申請先の国内選挙管理委員会に送付することとなりますのでご注意ください。登録申請のためには旅券を持参く

ださい。

(4) 「たびレジ」登録

在留邦人の皆様が、ポルトガル以外に旅行される場合には「たびレジ」の登録をお願いします。「たびレジ」に登録しますと、現地の大使館からの安全情報をスマートフォン等で受信することが出来ます。登録はこちら。<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

(5) 当館領事業務へのご意見募集

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975

E-mail：consular@lb.mofa.go.jp

(了)